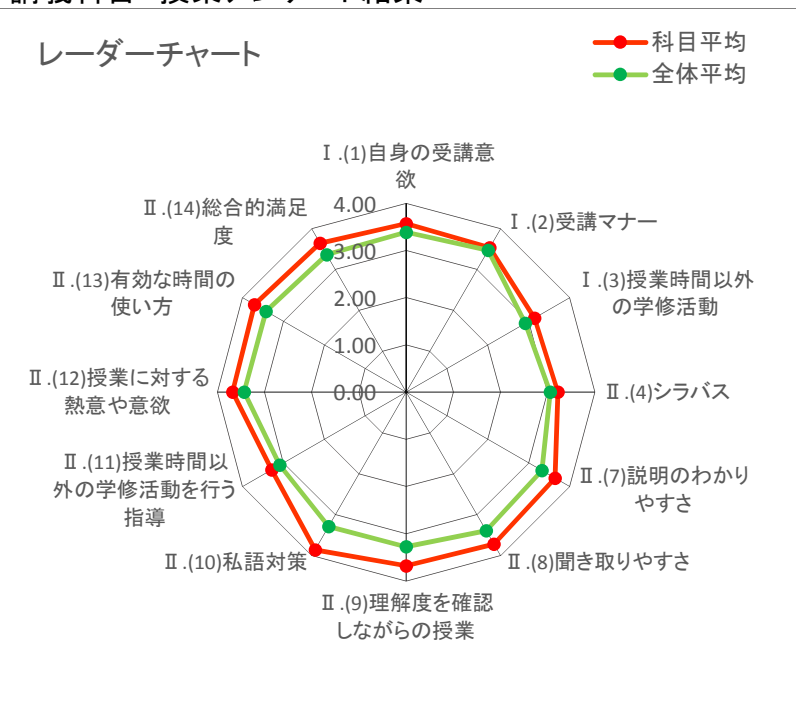
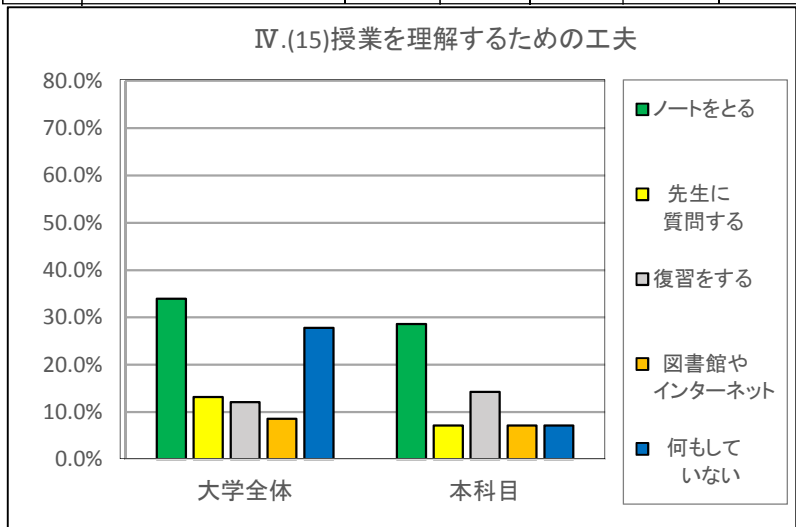


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	28.6%	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%



アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度 後期
時間割番号	33310
科目名	レジャー産業論
教員名	

①授業計画の達成度について

1日本におけるレジャー産業の歴史とその領域の分類 2日本のスポーツ産業の発達の歴史(スポーツ用品産業・オリンピックとの関連)3レジャー施設産業の発達・衰退・改善(東京DL・ハウステンボス・ユニバーサルスタジオJ)4商業ビルの建設と経済効果(東京スカツリー・あべのハルカス)などについて、最新のデータを提示、講義、議論した。ほぼ予定していた計画内容を講義することが出来た。しかし、レジャー産業はめまぐるしい改善・改革が行われているので深く議論することが出来なく、講義では、事実の報告、その改善・改革の意味説明におわれ、学生自身のアイデア・改善案はレポートに委ねたこととなった。

②授業の進め方について

基本的には毎時間プリントを準備し配布した。特に統計的資料が多く、最新のデータを準備することは大変であった。出来るだけ経年変化を理解できるような資料を準備した。また、インターネットによる資料収取から最新のデータを取り込み資料とした。特に、レジャー施設の改善改革(USJ・ハウステンボスなど)の取り組みは目を見張るものがあるので特に留意した。また、プロジェクターを利用し、資料の重要なポイントは拡大・色の工夫で視覚的に理解が出来るよう配慮した。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

教科書を用いず、原則毎時間資料を準備したので休まず出席した受講生にとっては理解しやすく、説明も丁寧にしたつもりである。図表やデータを提示し説明することで問題点や改善・改革内容を理解できたと思う。毎時間、前回の授業のポイントを復習し、当日の課題との関連を解説し授業を開始した。授業内容の継続性を理解できた学生には易しく思えたと思われる。欠席・遅刻の多い学生には難しい内容だと判断されたかもしれない。この領域の学習内容は、歴史以外は流動的に変化しているので教材研究が大変であるので最新情報で講義できるよう努力するつもりである。

	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.57	3.39
	I.(2)	3.54	3.47
	I.(3)	3.14	2.91
受講内容・方法	II.(4)	3.21	3.05
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.64	3.32
	II.(8)	3.71	3.39
	II.(9)	3.68	3.27
	II.(10)	3.86	3.28
	II.(11)	3.29	3.09
	II.(12)	3.68	3.43
	II.(13)	3.71	3.43
満足度	II.(14)	3.64	3.36

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.42	3.26
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.60	3.28
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.64	3.36
III.(14)		